

非常食の個人備蓄を

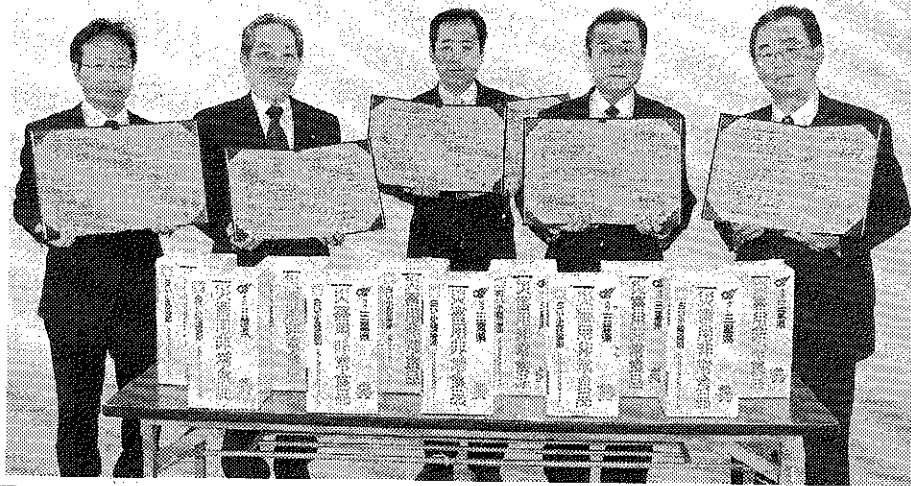
白い小箱
推進機構 熊野市、御浜、紀宝町と協定

熊野市と御浜町、紀宝町は二十六日、非常食や水などを入れた災害用物資「白い小箱」を無料配布している日本非常食推進機構(四日市市)と「災害救助に必要な物資の調達と普及啓発に関する協定」を締結した。

白い小箱運動を展開している同機構と協力し、大規模災害の発生に備え、各家庭で非常食の備蓄を推進してもらうのがねらい。同機構から三市町に白い小箱が三百個ずつ贈呈された。

小箱には、アルファ化米二袋とペットボトルの水二リ以外にアルミ製の温熱シート、簡易トイレが入る。食料などは授産施設で箱詰めされ、障害者就労支援にもつながっている。

県熊野庁舎で調印式があり、河上敢二熊野市長、古川弘典御浜町長、西田健紀紀宝町長と同機構の古谷賢治代表理事が協定書に署名、押印し、吉仲繁樹熊野県民センター所長が立



古谷代表理事(中)と三市町の首長ら

ち会った。河上市長は「この協定を通じ、個人備蓄を広げたい」、古川町長は「自助、共助、公助が重視される中での応援協定はありがたい」、西田町長は「住民の備蓄の浸透につなげた」と述べた。

古谷代表理事は「県

と一緒に三重キャラバンを行い、二十九市町に白い小箱を無料配布している。住民の皆様が非常食を備える意識を持ってもらうことも、互いに支援する仕組みづくりをしたい」と話した。